

神奈川県社会福祉協議会 ケアラー支援専門員設置事業（神奈川県委託）
令和5年度小田原地域研修リフレクションミーティングでの感想
※無断転用禁止

【これから自分にできること・必要な支援】

- ・本日学んだことを知識として、身につけていきたい。また、つながっていない状態の時は、必要などころにつなげていきたい。本日の研修を活用していきたい。
- ・「気にかけているよ」という意味で、声かけを続けていきたい。挨拶の内容の声かけ以外にも「元気?!」等その時の様子もキャッチできるような声かけをしていきたい。
- ・ここまでが自身の仕事（領域）、ここからはあっちの仕事、と考えるのではなく、グレーな部分（境界域）、「どっちでもいいじゃん」を作れるといい。
- ・自分だけの関わりではなく、地域のほかの支援者とつながっていきたい。
- ・子どもや親御さんに「一人じゃないよ」と伝えていきたい。まあ、地域の偏見も受けやすい場合が多いので、その点にも気を付けて関わっていきたい。
- ・地域の登下校の見守り。挨拶一つで何かあったら聞いてくれる雰囲気。毎日いることが大事。
- ・「助けて」と言える子は少数。「言ってもいいんだよ」を伝えたい。
- ・相談を受けててもすぐ解決できないけど、つながっていることが大切。関わりたいからこそ、一緒に考えるという姿勢でやっていく。
- ・即効性はない。ずっと見てるしかない。大人になってから気づいても関わられる。見守るしかない。
- ・声かけをしていきたい。
- ・自分だけの関わりではなく、地域のほかの支援者とつながっていきたい。
- ・高校卒業後の進路に、ヤングケアラーであることが影響する現実がある。ケアラーであることで将来を、進路選択を狭めることがないように、一緒に考える。そして「相談することは恥ずかしくないんだ」と伝えていきたい。
- ・仕事上、警察や児相、子育て支援、高齢介護といった支援機関の情報を整理する立場にある。そのネットワークを活かし、ヤングケアラーかどういった観察をすればいいか、どんなことを聞いてほしいか、今日気づいたことを伝えていくことができる。
- ・直接子どもとの関わり方で、鏡になって、話を聞きながら「生きていていい」「あなたのせいではない」と伝えていきたい。
- ・地域の人のお話を聞きながら、自分が子どもから「話を聞いてくれる大人」になる。子どもたちに、我慢しなくていいんだと伝えたい。（自分たちの子ども時代は、家族の手伝いは当たり前だったけれど。今は違うのだから。）
- ・目的をもって継続的に支援したい。日頃から関わりのある家族の「違和感」に感度良く気づき、専門家につなげ、継続的な支援を。
- ・大人が見守る。本人からの発信は難しい。大人がどうアンテナをはっていくか。学校からの相談は少ない。普段関わる場所との連携が必要。
- ・どうすればケアラーに自覚してもらえるかが難しい。些細なところ、基本的なところから丁寧に関わる。